

自閉症・情緒障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について ～合理的配慮の観点から～

現状と課題

特別支援学級に在籍する児童生徒の障がい特性や教育課程の編成の理解が不十分なことがある。

自閉症・情緒障がいのある児童生徒に対する適切な教育課程の編成・実施、指導及び支援が必要である。

目的

特別支援学級の教育課程の適切な編成・実施に関する情報等を提供し、合理的配慮の観点から、自閉症・情緒障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について整理する。

内容・方法

- ・ 研究協力校（小・中各1校）と連携し、実践事例を通して、自閉症・情緒障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について検討する。
- ・ 指導資料等を収集し、当センターホームページ及び公式Twitterを活用して普及する。

実践事例

【A小学校】

＜対象＞小学校第1学年、Aさん

- ・ 学習意欲は高いが失敗したくないという思いが強い。
- ・ 視線はあまり動かないが、対象物を見ることはできている。

＜実態把握＞

The table in the center shows a grid with columns for '項目' (Item) and '状況' (Situation). The rows list various activities and their status for student A.

項目	状況
授業参加	4 2 1
課題提出	4 2 1
授業中発言	4 2 1
授業中質問	4 2 1
授業中回答	4 2 1
授業中発言回数	4 2 1
授業中質問回数	4 2 1
授業中回答回数	4 2 1
授業中発言時間	4 2 1
授業中質問時間	4 2 1
授業中回答時間	4 2 1

【B中学校】

＜対象＞中学校第3学年、Bさん

- ・ 興味のあることに視線は向きやすいが、注目すべき部分に気づきにくいことがある。
- ・ 高等学校への進学を希望している。

＜合理的配慮＞

- 本児童が集中できる学習環境と学習展開の工夫
- 本児童が理解を深めるための発問の工夫
- 学習意欲を向上させる役割分担の工夫
- 学級全体による学習規律の意識

＜合理的配慮＞

- 本生徒の思いを受け止め、人格を尊重した言葉掛け
- 認知特性に合わせた具体的な学び方への支援（作文や英語）
- 進学を見据えた、通常の学級の教科担任と連携した各教科の評定

成果と課題

- 成果
 - ・ 合理的配慮の観点から、「集団の場面における個への配慮」と「個別指導における配慮」を検討し、適切な支援の在り方について共通理解が図られた。
- 課題
 - ・ 実践事例を基に指導資料を作成し、自閉症・情緒障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について、ホームページ等を活用して周知を図る。

北海道立特別支援教育センター

〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1 (011) 612-6211